

## 「対話と実行」座談会 高校生との座談会

### 第3回「高知県立室戸高等学校」(H22.10.25)の概要

#### 1. 開会

生徒： 本日はお忙しい中、室戸高等学校にお越しくださりありがとうございます。本日の座談会は、尾崎知事から講話をしていただき、そのあと、生徒による発表を行います。それでは早速、尾崎知事にお話をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

#### 2. 知事のあいさつ

高知県知事の尾崎正直です。今日は皆さん、「対話と実行」座談会に参加をしてくださいます。本当にどうもありがとうございます。

室戸高校は総合学科ということで、いろんな活発な活動をしておられる学校だと伺っています。野球部の甲子園での活躍や、まんが甲子園での活躍は、多くの高知県の皆さんがご存じだと思います。さらに、「610club（室戸クラブ）」を立ち上げ、室戸を元気にしようという活動をされたり、また、総合学科の特徴を生かして、福祉、工業技術の分野で個性ある取り組みをしておられると伺っています。

私から今の高知県の状況と、それに向けて全体としてどういうことに取り組んでいるのかについて、お話をさせていただきたいと思います。

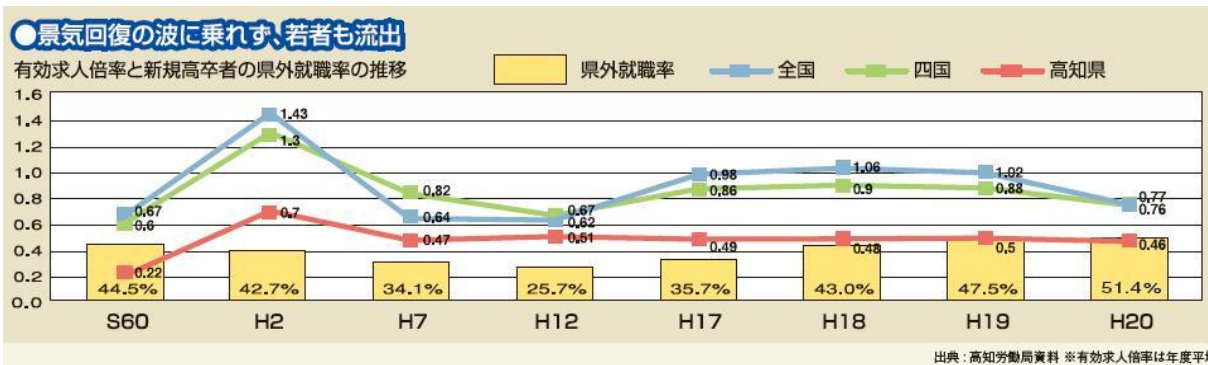
今、高知県全体、高知県庁として一生懸命取り組みを進めようとしていることは、大きく言うと三つあります。一つは、経済を元気にしようとする取り組み。そしてもう一つは、福祉の充実を図ろうとする取り組み。そして、三つ目が教育の改革をしようという取り組みです。この三つが大きな柱ということになります。

あわせて、これを成し遂げていくために、基本的なこととして、道の整備をしたり、さらには、南海地震対策を進めたりと、一生懸命取り組んでいるところです。

#### 【経済の取り組みについて】

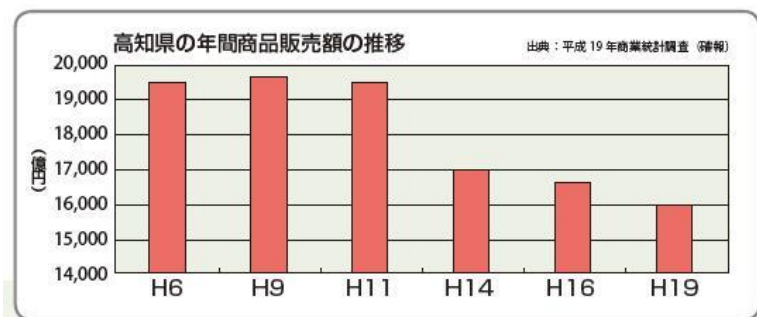
[高知県産業振興計画](#)の最初のページを開いてください。

高知県の経済、非常に今、苦戦をしています。大変な苦しい状況がずっと続いています。この折れ線グラフ(次ページ上段)があるでしょう。これは高知県の有効求人倍率の推移、流れを表したグラフです。1人の求職者に対して求人数がどれだけあるか。就職先がどれくらいあるかを表しているグラフです。平成12年くらいから平成20年くらいまでにかけてを見てください。



このオレンジ（高知県）の折れ線グラフと、青い（全国）の折れ線グラフを見てもらうとわかりますが、全国の方の折れ線グラフは、平成12年から19年ぐらいにかけてずっと上向きに上がっています。だけど、高知県は上に上がらないまま横ばいになっているでしょう。高知県は1人に対して0.5くらいしか仕事がないという状況がずっと続いていたんです。

**●高知県の年間商品販売額は大きく減少**



か物が売れてないということがわかっていただけだと思います。

これはどういうことかということ、経済の規模がこの間に2割も縮んだということです。普通は、経済の規模というのは年を追うごとに大きくなっていきますが、でもこの高知県においては、平成9年から平成19年まで2割も経済の規模は小さくなりました。

どうして小さくなったかということ、人口が減ったからです。もっと言うと、働く人の数が減ったから。人の数がどれくらい減ったかということ、平成2年には高知県の人口は84万人いましたが、今では77万人を切るぐらいまで高知県の人口は減っています。仕事をしている年代のことを生産年齢人口といいます。15歳から65歳くらいまでの年齢の人口は、2割ぐらい減っています。仕事をしていて、そしてお給料を稼いでくる年代の方の人口が2割減っているの、概ね人々が稼いでいるお金も2割ぐらい減っています。だから、商品を買ってくれる人の数も2割、商品の売り上げも2割ほど減っているというのが今の高知県の現状です。

これはものすごく深刻なことです。経済というのは、景気が良くなったり悪くなったり、海の波のように上がったり下がったりするのが普通です。だけど、高知県の場合はそうではなく、人口が減り、経済の規模も縮んでいくということがずっと続いているのが、現状です。

この室戸でも、大幅に人口が減っています。高知県で全体として減っている数は、7%から8%ですが、室戸はもっと減っています。他の中山間地域、他の地域ではさらに減っているところもあります。そういうところでは足元の経済規模がどんどん小さくなっています。

これに対して、高知県産業振興計画というのを作って、今、一生懸命やろうとしていることは何なのか。一言で言うと、地産外商ということをやろうとしているところです。足下の経済規模、自分達の周りの経済がどんどん小さくなる。そういう時に、自分達の周りだけに縮こまってしまっていては、明らかにジリ貧です。田舎だから、どんどん経済規模が小さくなっているところだからこそ、外に打って出て行って外からお金を稼いでくるということを必死になって考えなければいけません。

地産地消というのは、地場のものを地場で売り、自分達が買うものは基本的に地場のものを買いましょうという活動です。これもすごく大事です。でも、足下の経済の規模が小さくなっているの、これだけではいけません。田舎ほど外に打って出て行って、外からお金を稼いでくるということを、必死になって考えないといけません。そのために、今、県全体として地産外商をやろうとしています。

ニュースで盛んに、東京のアンテナショップなどについて取り上げてもらっていますが、あれも、高知のものを東京に持って行って売り込みをかけ、そして、外からお金を稼いで来ようとする活動です。

ただ、この地産外商を進めるということは、実際にはものすごく難しいことだと思っています。なぜなら、高知県の物を東京で売ろうとした時に、ライバルはたくさんいます。全国のいろんな県、いろんな地域が同じことをしようとしています。

東京は、日本の物だけではなく、世界各国あらゆるところからやって来たものであふれています。例えば、高知県産の木で作ったおもちゃが、東京に持って行ったら売れるかという、東京にはノルウェーやスウェーデンの木を加工したおもちゃが輸入され、山のようになら売られています。ですから、並みの努力では地元の木を加工して持っていったからと、珍しいということにはなりません。その分、ものすごくエネルギーと知恵が必要になります。いい物を作らないといけないし、それから、並居るライバルを押しつけて物を持って行く、その努力が必要だということです。

残念ながら、高知県の今の民間企業は、10年間くらい厳しい状況が続いているので、外に物を持って行って売れるような商品を開発する力や販路を開拓し、売り込みをかけるような力があるかという、必ずしもありません。だから、今、県庁と一緒に物を持って売らまう、そういう努力をしています。それが産業振興計画です。

もう1つあります。外からお客さんに来てもらい、高知県の中でお金を使ってもらおうという活動です。今、幸い、高知県は「土佐・龍馬であい博」、大河ドラマ「龍馬伝」のおかげで、たくさん、お客さんが来てくれていて賑わっています。でも、来年以降どうなる

かとか、今から考え始めないといけません。

今年は龍馬さんのおかげでたくさん観光客が来てくれましたが、来年以降どうするかといった時に、高知県のどういうところに、観光客が来てくれるかということを考えないといけません。大阪や東京の人は、旅先をどこにしようかと考えた時、全国でいろんな候補地があります。その中で、高知県を、室戸を選んでもらう理由がないといけません。

何で室戸に来てくれるか。何で高知に来てくれるか。今年は、坂本龍馬のドラマをやっているから高知に来てくれたかもしれません。来年以降もできるだけそういう流れを維持していきたいと思っています。しかし、いつまで龍馬のブームは続きません。なので、できるだけ、それぞれの地域で、全国の人々にも訴えることのできるような特色ある観光地づくりというのを目指さないといけないと思います。

室戸は、「610club（室戸クラブ）」の皆さんが一生懸命考えておられると思います。室戸ジオパークは、世界ジオパークを目指して取り組みを進めておられると思います。そういうかたちで、全国の皆さんの心をつかむような取り組みを、是非進めなければいけないと思っています。

ただし、簡単なことではありません。いかに世界ジオパークだとしても、世界ジオパークは日本の中にもう3つも4つもある。室戸は海がきれいで魚がおいしいと言っても、海が大きくて美しく魚がおいしい場所が全国にたくさんあります。そういう中で、全国の人々があえて室戸を選ぶ理由をしっかりと考え出していけないと思います。

#### 【地域医療と福祉の取り組みについて】

福祉の課題については、この室戸も含めて、県内全域で医師の数が減っているということです。実は、高知県は、全国の中でも1人当たりの医師の数が、第3位ぐらいに多いんです。だけど、それは高知市の周辺に多いということ。室戸市などの東部とか西部とか、そういうところの医師の数は少なくて困っています。またもう1つは、若い医師の数が少ないということ。そしてもう1つは、ものすごく大変な手術をしなければいけない診療科の医師が少なくて困っているというのが、高知県の医療現場の現状です。

どうやって地域の医療を確保するかが、今、ものすごく大きな課題になっています。そのために、「高知医療再生機構」というのを作って、若い医師の腕を磨けるような設備をたくさん作って、若い医師達に全国から来てもらって勉強してもらおう。そして、高知に残ってもらおうという取り組みを進めたりしています。

そして、安芸・芸陽病院の建て替え。今度、新しい病院を作る予定ですが、そこを地域の医療に携わってくれる先生を養成する拠点病院にしようと、取り組みを進めています。また、ドクターヘリをもう一機導入し、2つのヘリコプターで高知県の東部地域と医療センターを結んで、何かあった時には、高知市から医師に来てもらおう、またはこちらから患者を運ぶという取り組みを進めていこうと考えているところです。

このような医師不足の問題とともに、特に高齢者の方の日々の暮らしをどうするかということも、高知県の福祉の現場では非常に大きな課題になっています。

高知県の中山間地域では、高齢者の独り暮らしというのがものすごく増えているんです。連れ合い（配偶者）を亡くしてお一人になった方や、障害のある方もいます。しかし、周りには、それを支えてくれる若い人がいない。高齢者の皆さんが孤立しているという状況が起こっている。残念ながら、家の中で倒れていても誰も気付かないということが、たくさん起こっているんです。こういう状況を、まず何とかしなければいけない。

さらに、交通手段がなくて困っているという状況もあります。買い物をしに行こうにも、交通手段がない。買い物に行けないからご飯を食べることができない。風邪で倒れていて伏せていても、誰も助けてくれないといたら、ものすごく大変でしょう。けれど、高知県では、こういう人の数がものすごく増えていて、大きな課題になっています。

普通は、こういう状況になると、民間の会社がいろいろな福祉サービスというのを提供してくれるようになります。けれど、残念ながら高知県の場合は、それがなかなかうまくいきません。どうしてかということ、人の数が少ないので、サービスを提供しようにも、商売にならないからです。結果として、孤立した高齢者の方がそのまま放置されてしまっているということが、たくさん起こっています。それを何とか、県とかで、この福祉の取り組みを助けていきたいと、高知型福祉の推進を今、進めています。「あつたかふれあいセンター」の取り組み、さらには、地域見守り協定の取り組みなど、官のほうでいろいろ行って、高齢者の皆さんを支えていこうとしているところです。日々の暮らしに関わる問題、それぞれの生活を支えていくという問題ですから、ものすごく難しい課題です。でも、この分野ほど、若い人達の力が必要とされているところはないと思っています。

#### 【教育改革の取り組みについて】

今、中学校とか小学校で学力の向上、体力の向上をはかっていこうと、取り組んでいます。また、高校生の皆さんにも、それぞれの学校で、立派な社会人になれるような、特色ある教育を行っていくべく努力をしています。

#### 【県庁の仕事について】

南海地震対策のために、堤防を設置したり、津波避難タワーを設置したり、さらには高速道路を整備をして、「命の道」を確保したり、また産業振興計画に貢献できるような道の整備をするなど、様々な仕事をしているのが、高知県庁ということになります。

普通、高知県庁の仕事というと、県職員、あとは県議会議員だけに関係する仕事のように思うかもしれませんが、実際に福祉や観光の仕事の担い手となるのは、地域の住民の皆様のようです。その中で皆さんのような若い人の力が、是非とも必要だと考えています。

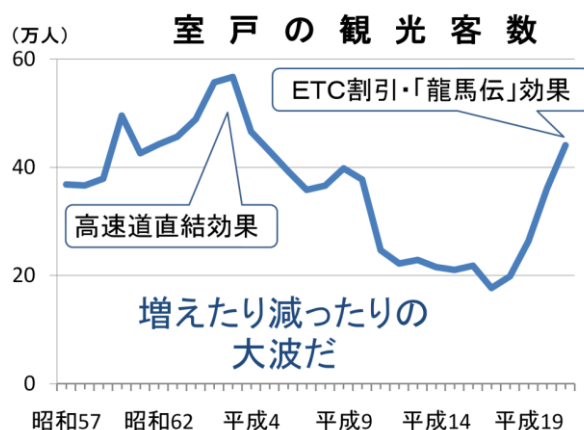
### 3. 生徒のプレゼンテーション

#### 【まるごと室戸を味わおう！】(郷土研究)

私たち郷土研究・深層水研究受講生は、室戸を元気にするアイデアについて考えました。

まず、このグラフを見てください。これは、昭和57年から室戸市観光客数を表したものです。

どうですか、不安定ですよ。たくさんの観光客に安定して来てもらうためには、リピーターをいかに呼び込むかが大事だと考えました。ここから、生涯繰り返し、室戸を訪れてもらうための「まるごと室戸を味わおう」プランの始まりです。



#### 室戸 de 修学旅行

古い町並みとして評価の高い吉良川ですが、どこかさびしい感じがします。この町並みを子ども達で一杯にしたいと思います。そのために、民泊で修学旅行生を受け入れてはどうでしょうか。そうすれば、子ども達にじっくりと室戸を知ってもらうきっかけになります。室戸の青い海と青い空に包まれば、きっとこんな声が聞こえてくるのではないのでしょうか。

「吉良川の家は、室戸ならではの知恵が生かされていたね。歴史を感じさせる家で、風通しが良くて涼しかった」「ここで食べた魚は、いつも食べている魚より新鮮でおいしかったね」「深層水のお風呂に入ったら、肌がつるつるになったよ」

また、自然がいっぱいの室戸で、イルカやいろんな魚と出会い、美しい海を体験し、楽しんでもらいたいと思います。

そして室戸の雄大な自然に包まれて過ごしたことで、子ども達の心に印象が深く刻み込まれました。それから、時がたち…思い出の土地を訪れるカップルの姿がありました。

#### 恋人の聖地・室戸岬でプロポーズ大作戦！

ここは、恋人の聖地、室戸岬。次から次へとカップルが訪れて、プロポーズの言葉が飛び交っています。恋人岬で結ばれた二人は、



将来、思い出の場所を家族旅行で訪れることになるでしょう。

### 家族で楽習♪室戸ジオパーク

家族旅行はもちろん、室戸ジオパークです。ジオパークとは、地質遺産とともに文化遺産や生態系の多様性などを楽しむ場所です。

行当岬(ぎょうどみさき)の近くでは実際に化石を探することができます。宝探し感覚で、化石を実際に見つけることは、未知との出会いを体験することになります。鯨館で、発見者の名前を記録してくれるので、いい思い出になり、家族で訪れるのには、とっても面白いところです。

空海が修行したと言われる、御厨人窟(みくろど)は、波によって削られてできた天然の洞窟で、地球のダイナミックな動きがわかる場所です。



室戸高校では、ジオパークの観光ガイドを育てるための講座の準備を進めています。

さらに室戸といえば、お遍路です。遍路とは、「札所をひたすら巡り歩く」ことです。お遍路さんにくつろいでいただけるようなお接待のアイデアを考えました。

夏の暑いときはミストシャワーで涼しくなります。冬は深層水の足湯で温まります。このように、室戸では6610mごとに休憩ポイントを用意して、お遍路さんが歩く

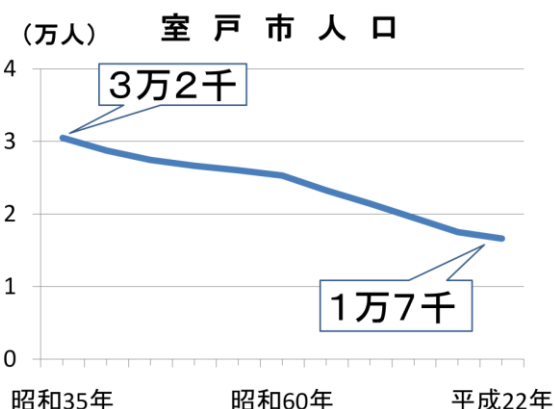
のに良い環境を作ります。

民泊、恋人岬、家族旅行で訪れた夫婦が、子ども達の自立と定年退職など、ライフサイクルの大きな節目を迎えた時に、きっとお遍路旅に訪れることでしょう。

遍路旅の途中でたくさんの人情に触れ、室戸が好きになり、親子で室戸に移住して炭焼き技術を伝えた植野蔵次さんのように、何度も室戸を訪れることで、室戸を好きになり移住してくれるような人も増えて欲しいです。

そういった人を増やすためにはどうすればいいでしょうか。

室戸の人口の推移を見てください。年々減少し、現在は1万7000人を切っています。この減少の背景を考えるために、産業別人口の推移も見ましょう。



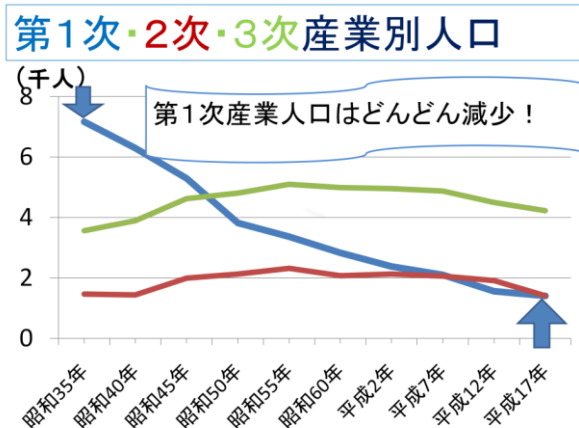
特に、第1次産業人口の減少が激しいです。また、第2次産業人口の低迷も目立ちます。観光客の数を増やすだけでは、室戸の活性化には不十分だと考えます。産業を育て、雇用を増大することで、Iターンによる定着人口が増え、室戸市に活気が出るのではないのでしょうか。

そこで、私たちは、新たな室戸の特産品として期待されているスジアオノリの養殖に注目しました。深層水は、栄養塩類が豊富で、スジアオノリの陸上養殖に適しています。

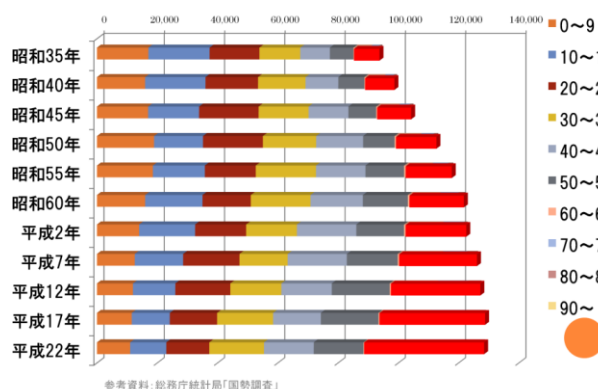
さらに、スジアオノリの養殖過程での排水には酸素がたくさん供給され、それをトコブシなどの養殖にも活用できると期待されています。室戸海洋深層水を利用したスジアオノリの養殖からはじまるビジネスチャンス！ このように室戸の海の恵みは大きな可能性を秘めています。スジアオノリの養殖による一次産業の発展にとどまらず、新商品開発やマーケティングによる市場開拓へと夢は広がっていきます。

このプランで、室戸を好きになってもらい、さらにIターンによる人口増加の可能性を示しました。そのためには、まずは地域が1つになること、そして、室戸を愛する気持ちを持つこと、住みやすい街にするためにアイデアを出すことが大切だと思います。

これからも、室戸のいいところを発信していきたいです。



### まずは日本の人口推移を見てみよう！ 過去～現在～未来



### 【高知県の福祉未来予想図】(生活福祉系列)

まずは、日本の現状や未来を見ていきたいと思います。この表は、10歳ごとに区切り、色別で表しています。

現在、日本の人口は約1億2745万人です。

60歳以上の人口を見ますと、全体の人口に占める割合が多くなってきているのが分かります。

現在、高齢者を支える比率は3人で

1人を支えるかたちですが、45年後の2055年には高齢化率は約40%となり、1.2人で1人を支えなければならないこととなります。

続いて、高知県の人口推移を見てみます。昭和45年の高知県の総人口は約78万7000人ですが、昭和60年にはピークを迎え、以降、人口は減少しています。また、人口



推移と同じく高齢者の割合が増加していることが分かります。

では、室戸市を見ていきましょう。グラフからも分かるように大きく人口の減少が見られます。

統計情報研究開発センターが推計した市区町村別の推計人口によると、2035年には全国の783の市のうち、高齢人口比率が高い都市の上位に室戸市が入ります。高齢人口比率が高い都市は過疎進行型といい、若・中年層の流出等で人口全体が減少した結果です。

室戸市の高齢化率は2035年までに50%を超え、1人で1人を支えることが予測されます。

そこで、介護の現状を理解していただくために、介護従事者に対してとった「労働条件等の悩み、不安、不満等について」のアンケート結果を見ていただきたいと思います。

1位、仕事内容のわりに賃金が低い。2位、人手が足りない。3位、有給休暇がとりにくいという結果でした。

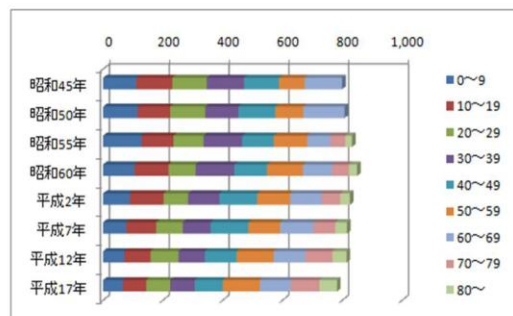
介護福祉士登録者数を調べてみると（平成22年2月現在）、日本では介護福祉士登録者81万2152人、高知県では7498人、室戸市、推定88人です。

将来的に高知県で必要な介護福祉士の人数を算出すると、2025年には1万445人、2035年には1万2003人が必要になります。

平成22年3月現在では、県全体で要支援・要介護者は、4万729名います。つまり、介護福祉士1人当たりが、介護を必要としている5人を看ている状態です。室戸市では介護福祉士1人当たりが介護を要している13人を看ている状態になります。このままでは、過疎が進んでいる地域では、介護福祉士に多くの負担がかかることとなります。県全体でこの課題を解決していかなければいけないと思います。

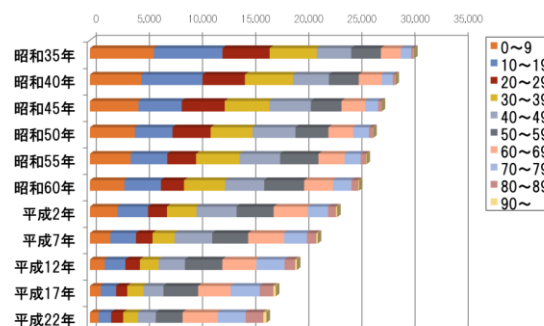
介護従事者の離職率は、全労働者の離職率より、平均3%前後高いという報告があります。一方、福祉系高校を卒業して福祉分野へ就職をした高校生は、他の進路をたどって就職した者に比べ、格段に離職率が低いことがグラフから分かります。さらに、このグラフには表していませんが、福祉系高校を卒業後、福祉系大学に進学した者が福祉分野へ就職した場合は、さらに離職率が低いことが確認されています。

### つづいて高知県の人口推移を見てみよう！



参考資料: 総務庁統計局「国勢調査」

### 室戸市の人口は！？



参考資料: 総務庁統計局「国勢調査」 住民基本台帳(H22)

福祉分野の仕事を選んだ理由を現在働いている介護従事者に対してとったアンケートによると、1位、働きがいのある仕事だと思った。2位、人や社会の役に立ちたい。3位、資格・技能が生かせる、となっています。

そこで、平成21年度高知県公立高校卒業生就職状況を見ると、県内外の就職者数が1053名。県内就職者数は589名で、そのうち42名が福祉施設に就職しています。就職者数の7.1%の者が福祉施設に就職していることになります。

私たちは、高知県下の高校生に、福祉を学べる、より多くの機会を作ることが必要ではないかと思えます。そこで、解決策として、3つ提案します。

一つ目は、福祉に関することを専門的に学ぶために、高知女子大学との高大連携を提案します。その構想として、福祉の科目を勉強する者に対しては、入学金・授業料の半額免除・全額免除。高校生は、大学で講義を受けることにより単位が認められるシステムを導入。大学生は、高校生と共に活動を行うことで単位が修得できるシステムを活用。このような制度により、高校生・大学生がともに単位が認められ、資格を取得できるようにすればいいのではないのでしょうか。

二つ目は、これから、1人が1人を支える時代がきます。誰もが支える側、支えられる側になるので、福祉の問題を自分のこととして考えなければなりません。だから、教養として、福祉に関する科目を必修とする高校を設置してはどうでしょうか。

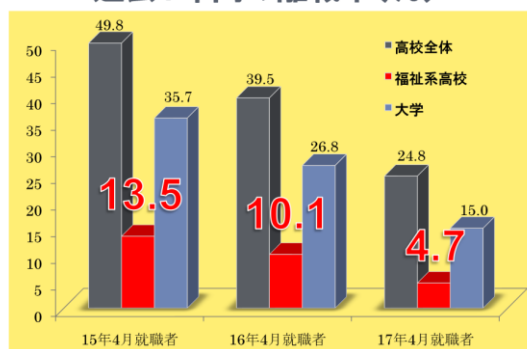
三つ目には、福祉現場で資格を持って即戦力となる専門的知識・技術がある人材を育てるために、専門科、つまり県内初の福祉科高校を設置してはどうでしょうか。

これからの福祉における様々な問題に立ち向かうためには、大学、高校、高知県が協力しなければならないと思えます。大学、高校については、互いに単位修得ができ、質の高い学習が出来ると思えます。高知県は、人材確保ができ、学生は求人確保ができます。高知県は生徒に投資することで、高校生は地域に還元できます。これらにより、質の高い専門職を育てることと、道徳観・倫理観がある人間を育てることができると思えます。

### 【風力発電への挑戦】（生産工学系列）

室戸高校は、南海地震が起きた場合、避難場所になるだろうと考え、その時に何が必要かを考えました。そして、南海地震が起きた場合、停電になっても最低限の電力が確保できるように、発電機をつくらうということになりました。

過去3年間の離職率(%)





また、普段は、その発電した電力で、夜間に点灯させれば、室戸高校の目印となるのではないかと考えています。

そして、数あるエネルギーの中からなぜ風力を選んだのかというと、室戸は風がよく吹くこと、そして風車を作る部分で工業の加工技術が生きてくると考えて、風力発電に決定しました。

それでは、風力発電について説明します。

今回は回転が遅く、風向きに関係なく回る垂直軸風車の製作をすることにしました。理由は、風向きをあわせて制御することが難しいことと、プロペラのような羽を作ることが難しいためです。それでは、これから実際に作ったものを見ていただきたいと思います。

材料は回転するエネルギーを電力に換える発電機。発電した電力をバッテリーに充電したり、実際に何かに出力したりするコントローラ。そして、バッテリーです。

鉄を適量、風車の軸や台座に使っています。風車の羽や接続部品にはアルミを使います。

完成し、組み上げたものがこれです。

来年度は、安定した電力を供給するために太陽光発電の追加も考えています。僕達は卒業しますが、今の生産工学系列の2年生に頑張ってもらいたいと思います。



### 3. 生徒と知事、教育長との意見交換

【まるごと室戸を味わおう!!について】

知事： 皆さん、発表をありがとうございました。

さっき、私もお話したんですけど、人口減少の問題。室戸市が3万2000人いた人口が、1万7000人まで人が減っていますよね。その中でも特に室戸の産業の中心である一次産業の人口から減っているのが問題だということですよ。

さっき話をした産業振興計画というのでも、一次産業をもっと元気にして、それにあわせて加工品を作っていこうと取り組みを進めているところです。

高知県の園芸農業の、土地当たりの生産性というのは、全国でもずば抜けて高い1番です。しかし、その高知県の農業でとれる金額は全国で今、どれくらいの位置にあるかということ、なかなか厳しいものがあります。

高知県の農業の生産額は、全国第34番です。30位にも入ってない。だけど、土地当たりとれる野菜の量というのは全国で1番。結局どういうことかということ、土地が狭いので全体として採れる量は、それほどじゃないんです。

そういう中で、土地が広い県との競争で苦戦をしています。

野菜が今、全国で一番採れているのは、千葉県です。その次が茨城県。それから長野、北海道、埼玉県という順番です。結局、都会に近いところなんです。

都会は工業で、田舎は一次産業だと思うでしょう。しかし、今の時代は農業、一次産業も都会のほうが元気が出て来ている。そういう状況の中で、どうやって高知県の一次産業を元気にしていくかということ、これから皆さんのような若い世代の方々にも一緒に考えてもらうことが、是非とも重要だと思います。

一次産業が大事だから、とにかく一次産業の振興をしようということですが、では、どうやるのかという話の時に、他の県でも珍しい、スジアオノリの陸上養殖とか、また、それを使って特徴のある加工品を作ろうというふうに知恵を使うという方向性は、重要だと思います。要するに、「キャラがたって」ないといけません。当たり前の事をしていただけでは、土地が広く、東京のような大市場に近い県に負けてしまいます。勝つためには、いかに「キャラをたたせる」か、知恵を練るかが求められていると思います。その点で、さきほどの発表は本当に素晴らしいと思います。是非、いろんな知恵を練ってください。

さっき、木を加工しておもちゃにしたらという話をしました。けれど、単に木を加工しておもちゃにするだけではいけません。室戸には、炭を作る伝統がありますよね。室戸でできる炭は、日本の中でも最高峰の技術を持ってる炭なんです。同じ木を使って炭を作っても、他の炭とは違う。ずば抜けて優れた品質を持っています。だから、日本の全国でいろんな方から支持され、買いたいという人がいるわけです。

室戸ジオパークの取り組みは、世界のジオパークになれば、確かに世界の中でも、際立ったすごいことになります。しかし、他の県にもジオパークはあります。室戸のジオパークが他のジオパークと違って際立ってすごいと、一言で表現できる事が重要だと思うんです。室戸のジオパークが、他のジオパークよりもキャラがたっているものにするために、どうすればいいかということを考えてもらいたいと思います。

それから、プレートテクトニクス（地球の表面が何枚かの固い岩板（プレート）で構成されており、このプレートが互いに動いているという考え方）の動きを、初めて地上で確認することができたのが室戸のジオパークです。プレートテクトニクスの動きで地球上に陸地が新しく生まれてくる姿を見ることができるのは、他のジオパークとは、規模の大きさが違います。

どうやって他のジオパークと違うキャラクターがたてられるか。そのところの勝負だというふうに思っています。

### 【福祉について】

知事： 私は高知市立鴨田小学校に通っていました。鴨田小学校は当時、高知県で一番大きい小学校で、神田小学校と分かれてもなお2000人の生徒がいました。今も、高知県で一番大きい小学校ですが、生徒数は960人くらいしかいません。私が子どもだった頃に比べて、生徒の数が大体半分くらいになっています。

あと30年くらいしたら、さっき言ったように、子どもの数が半分しかいない。その子ども達が今度、30年経ったら大人になりますよね。大人になって、2000人の高齢者を、1000人で支えないといけないということになり、1人で1人を支えるよりもっと厳しい状況になるぐらい、これからの福祉の世界というのは大変になると思います。

単に、1人で1人を支えないといけないから大変だというのではなく、もっと言えば、日ごろの見守り、安否の確認など、1人がやらなくてはならないことが増え、大変になってくるんだろうと思います。福祉に大勢の人の力が必要になってくる時代がくるのだと思うわけです。

だから、福祉の仕事って本当にこれから大事です。ですが、いろいろ条件が厳しいこともあって、離職する人がものすごく多かったです。それから、そもそも福祉の現場に就職しようとする高校生の数が不足しているという問題があるんです。だから、どうやって福祉の仕事に興味をもってもらい、高校生の皆さんにそういう現場への就職を考えてもらうかということが大事であるとともに、その福祉の現場自体のやりがい、労働環境というのをどう改善するかということも、実際にはものすごく大きいことだと思っています。

例えば、介護の職員の給料は、少しずつ上がっていますが、まだまだ改善は不十分で、これからもっと取り組みを進めないといけない現場だと思います。

具体的に女子大との単位を交換、それから、教養科目として福祉のことを取り組んでいこうという、良いご提言をいただいたので、是非考えてみます。

福祉系の皆さんって、何人いらっしゃるんですか？ 今、各学年で6人ぐらいずつなんですか。特に、福祉のほうをやってみようと思ったのはどうしてですか？

生徒： お年寄りが増えてきているので、介護の勉強をして、室戸のお年寄りを助けたいと思ったからです。また先生に勧められたからと、就職率が良かったからです。

知事： さっき、仕事が高知県はあんまりないと言いましたが、介護の分野とか、そういう分野ではたくさんあります。ですが、なかなか若い人が参加してくれないということが一つの大きな問題になっています。

これは、何ととっても、まずは大人が悪いと思っています。もっと介護の分野や、福祉の分野で若い人が就職できるような環境を整えることを、大人がしないといけません。本当に必要とされている分野なので、是非、身近な自分のおじいちゃん、おばあちゃんを助けたいという気持ちとか、また、自分のお父さん、お母さんを助けたいという気持ちを、他の人のおじいちゃん、おばあちゃんも助けようという気持ちに広げて、考えてもらいたいと思います。

教育長： この「福祉の未来予想図」、タイトルがいいですね。未来予想図。そして、そこに提案が入っていますね。これ、非常に素晴らしいことだと思います。非常に的を射た良い発表だったと思います。

ちょっと遡りますけど、最初の発表の中で、これからいろんな工夫が必要だというお話がありました。まさにそれがポイントです。良い素材はいっぱいある。あるけれども、それをどう生かすかというのは工夫なんです。深層水のスジアオノリを研究し始めたのは、多分、10年くらい前だったと思います。試行錯誤して何回か失敗もしています。やっどこまでこぎつけたということです。良い素材をどう生かすかは人の知恵。努力だと思いますね。ここに可能性があると思います。

#### 【風力発電について】

知事： さっき話を伺ったとき、発電機が最初はちょっと回りにくかったけど、回し始めたらどんどん加速してかなりのスピードで回るようになりましたよね。あれは、羽はどういうところに苦労、工夫されたんですか。是非、聞いてみたいと思うんですけど。

生徒： 羽は、当初はアルミを使って作ろうとしていたのですが、性能が悪かったので、発泡スチロールを使って飛行機の羽に近くなるように作りました。揚力を利用して回しています。最初は、風の力をそのまま受けて回るような構造でしたが、揚力を使うと、少ない風でもよく回るようになります。

知事： 僕は科学技術のことはあんまりよくわかりませんが、確かにものすごい勢いで加速していききましたね。

風力発電への挑戦という話なんですけど、いろんな技術の開発に、今後もし是非チャレンジしていただき、常に意識していただきたいというふうに思います。

なぜなら、今、石油とか天然ガスのエネルギーは、どんどん外国から輸入しているでしょう？ ほとんどのエネルギー資源というのは、日本は外国から輸入していますけど、20年後も30年後も同じようにこのエネルギーが輸入できるかという、やや疑問なんです。どうしてかという、世界中で石油や天然ガスをものすごくたくさ

ん使うようになっていきます。中国もインドも皆、車で通勤するようになり、ものすごい勢いで石油や天然ガスを使うようになってきています。だから、お金を払っても手に入れるのが難しくなる時代がくるかもしれません。

実際に石油の価格は上がっていった。例えば、ガソリンの値段がどんどん高騰していったのは、知っているでしょう？ 生産制限をしていることがあって高騰した面もありましたが、根本的には量が不足しているから値が上がっていきました。だから、そういう中でどうやって日本で自前のエネルギーを確保するかが、大きな課題なんです。

新エネルギーという言葉がありますけど、例えば、山にある木を燃やしてエネルギー源にしようとか、太陽光で発電をしようか、そしてもう一つは風を生かして発電をしようか、そういう取り組みが是非とも重要なんです。

ただ、残念ながら、このような新エネルギーを作り出す効率は良くて、なかなかうまく発電ができません。だから、どうやって効率を良くするかというところに技術と知恵が要るんだと思います。この分野で素晴らしい技術を開発することができたら、多分、人類全体に貢献するような話になると思います。

特に高知県は、風や日光、木、雨など新エネルギー、再生可能エネルギーといわれるものの宝庫なので、エネルギー技術をうまく生かすことができれば、高知県を元気にできるかもしれません。

高知県は今年、「新エネルギービジョン」というのを新しくつくることにしています。そのような新しい再生可能エネルギーを生かした県土づくりをしようと、県として一生懸命考えています。そういう取り組みにも是非、いろんな興味をずっと持ち続けていただいて、将来大いに貢献してもらいたいと思います。

教育長： 質のいい電気、電力って聞いたことありますか？ 質が良いといたら明かりがきれいとか、そんなことはありません。いつも安定的に必要なに応じて電気を供給できること。これを質の良い電気といいます。今、新エネルギーは、風力発電、それから太陽光発電、波力発電など、いろいろあります。でも、いつも同じように電気が起こせないし、それから、昼と夜では発電量の調整が難しいです。だから、質の悪い電気と言うんです。

でも、これを抜本的に解決する方法が一つあります。蓄電技術ですね。蓄電技術がものすごく発達すると、新エネルギーは飛躍的に伸びる可能性があります。実は私も、それをものすごく期待しています。

それから、今回作った発電機はサボニウム型発電といいますよね。この上に太陽光パネルをつけてハイブリッドにする。つまり、風と太陽光と両方使って発電をして上手に蓄電をする。このサボニウム型というのは、小さいエネルギーで発電することが

できる。つまり、逆に言えば小さなエネルギーしかできないんだけど、上手に使うと非常に有効です。

例えば、夜、南海地震が起きました。室戸はすぐ津波が来ますので、避難しなければいけません。夜、真っ暗な避難道にこれを付けておいたら、道がわかりますよね。だから、この風力と太陽光をうまく兼ね合わせて蓄電池を使い、毎晩そこに電気がついている状態にしたら、素晴らしいことだと思います。是非、研究を進め続けてください。

【知事、教育長への質問】

生徒： 高校進学するとき、地元から高知市内の学校へ行く子が多くて、室戸に残る子が少ないので、地元に残るような制度をつくって欲しいです。

教育長： そうですね。今、大体、室戸市で中学校を卒業して室戸高校に入って来る生徒の割合は半分くらいでしょうか。半分くらいが外に出ていると思うんですね。

じゃあ、どうして高知の学校に行くのかな。室戸高校がもっともっと魅力ある学校になったら室戸高校に進学する生徒が増える。そういう学校には誰がしていく？ 室戸高校の先生、それから私のような教育行政をしている人、それから、室戸高校の生徒で、良い学校にしていけば、室戸高校に行こうという生徒さんが増えてきますよね。

例えば学力、スポーツの面もそうかもしれないし、芸術の分野もそうかもしれないし、さっき言っていた福祉、工業の分野だとか、生徒さんにはそれぞれ自分の興味のある分野というのがありますよね。それぞれの分野で特徴、素晴らしさを出していくしかないなと思います。子どもの数はどんどん減っている中で、できるだけ多くの子どもが室戸高校に進学をしたくなるような、魅力ある学校にしていかなければなりません。私どもも頑張ります。生徒さんも一緒に頑張らしましょう。

生徒： 室戸はスーパーなどがバリアフリーになっていないのですが、室戸は高齢者が多いので、バリアフリー化して欲しいです。また、家族や友達が遊ぶレジャー施設が少ないので、できたらいいなと思います。

知事： そうですね。バリアフリー、もっと言えばユニバーサルデザインを進めていくことが重要です。新しい施設を作る時は、できる限りユニバーサルデザインで進めています。あと、もう一つは、今あるところでも不便な部分を直していかないといけません。こういうところが特に不便だという部分を是非、声をあげて教えていただきたいと思います。

もう一つは、レジャー施設が少ないということですが、室戸には素晴らしいレジャ



一施設があると思います。きれいな海があって、ジオパークがあって、恋人岬がある。あの室戸岬の灯台あたりから見る星はものすごくきれいです。あの星は、日本中のどこに行っても、そう簡単に見られるものじゃないと思います。

他の県にも当たり前にあるようなレジャー施設があれば、確かに便利かもしれません。しかし、室戸には、他県には無い素晴らしいものがたくさんあります。それは、皆さんご存じだと思います。それを売りにして、レジャー施設にすることを考えられるといいかなと、そういう感じがします。

ジオパーク、恋人岬の取り組みや、ドルフィンセンターなど、室戸の自然を生かしたレジャーというかたちで、やっていけばいいのではないかと思います。

**生徒：** 室戸市は交通機関があまり充実してなくて、バスも時間帯は1時間に1回とかです。室戸は高齢者が多いので、病院に通院するとなると、高知市に行かなければならないと思います。その時に、ごめんなはり線を使うなら、奈半利までバスで行かなければならず、そこからまた、高知まで行って通院して、治療費も払うとなると、すごい金額になると思います。できれば、室戸にも電車を通していただいて、高齢者が安く病院に行けて、治療も受けられるようになればいいなと思います。電車が通ることで、室戸高校への進学を、田野や安芸に住んでいる子ども達が考えてくれるのではないかとも思っています。

**知事：** 残念ながら、電車を室戸までというのは難しいと思います。電車を室戸まで通した時に、利用する人の数が少なくて採算が合わず、その会社がつぶれてしまうことになるかも知れません。これが一番難しいところ。

高知県には新幹線がありません。もっと言えば、他県にあるような電車が無い。路面電車はあるけれど、いわゆる電気で動くものがない。高知県にはいろんな、他の県にあるけれどないものがたくさんあります。人口が少ないので、採算が合わないからということがたくさんあります。室戸市では、高知市にはあるものも、室戸のほうが人口が少ないから採算が合わないので出来ないものも多くある。ゆえに不便だということがたくさんあると思っています。

これをできる限り、官で何とかするように努力をすることが重要だと思います。室戸まで、高速道路を引っ張ってくることはできないにしても、せめて奈半利までの間には、できるだけ良い道に作っていきましょう。さらには、病院も高知市まで行かないで済むようにするために、少なくとも安芸・芸陽病院に良い医師を確保し、良い医療が受けられるようにしましょう。それでも高知市に行かないといけない場合には、ドクターヘリのようなものをもっと充実させましょうとか。どうしても人口が少なくて厳しい側面がある分を、少しでも埋められるように努力する。そういうことじゃな

いのかなと思います。

ただ、ひとつだけ夢があります。デュアル・モード・ビークルという車になったり自動車になったりする車両を使って、鉄道路線が無いところに車を少しでも通すことができないかと、技術の研究しています。それならできるかもしれない。ただ、時間がかかると思いますね。

**生徒：** 室戸には「やすらぎ」というホールがあって、そこで毎年、中学校と高校が1回ずつ定期演奏会をしています。そのホールを借りるお金を、室戸中学校は市のほうが出してくれているんですけど、高校は県の学校なので、お金を自分達で負担しなければなりません。それがすごく活動するうえで負担になっているので、少しでも援助していただけたらなと思います。

**教育長：** 中学校の場合は室戸市立の中学校で、室戸高校は県立の学校だからだと思います。こういう問題は県内にもいくつもあると思いますが、にわかにお答えはできません。勉強させてください。どんなやり方ができるのか。

**知事：** できるだけ、皆で使えるようにしたいですもんね。これは、大人の世界でいう「制度の壁」というやつだとは思いますが、ちょっと勉強させてもらいましょう。

**生徒：** 南海大地震が来た場合、県はどのように対応されるのでしょうか。

**知事：** 南海地震については、南海地震条例（「高知県南海地震による災害に強い地域社会づくり条例」）というのがあります。それに基づき、南海地震対策について大きく言うと、二つの計画を作って対策を練っています。

一つはどういうものかという、南海地震が来た時、少しでも被害を小さくするために、事前に準備をしておこうという計画です。例えば、必要なところに堤防や津波避難タワーを作ったり、あらかじめ避難経路を皆で共有するために、地域の自主防災組織をつくる活動をしようとする計画（「高知県南海地震対策行動計画」）があります。

もう一つあります。これが重要なんですけど、南海地震が来た直後に、どうやって復旧復興を図っていくか、応急対策をどうやっていくか、起きた直後にどうするか対策を考え、応急復旧計画（「高知県南海地震応急対策活動計画」）という計画を作っています。例えば、室戸で一番心配されるのは津波です。津波が来た。それに対してどう避難し、避難したあとの人々に対してどうやって食糧を供給していくか考え、対策を練っています。

30年以内に南海地震が来る確率は、60%だというふうに言われています。し

かも、地震が起こったあと、津波が繰り返してやってくるということが想定をされているわけです。その被害を減らすために、日ごろから備えをすることが第一です。第二は、地震が来た直後の復旧対策です。この二つの計画を立てて取り組みを進めているところです。

**生徒：** 知り合いに仙台の方がいるんですけど、仙台城で鎧（よろい）とか兜（かぶと）を着た人達が、地域の活動としてイベントをしたりしているようなのですが、高知城では出来ないのでしょうか。

**知事：** 武者行列のようなものですか。特に長宗我部がお薦めなんですか？ それは分かります。幡多のほうでは一条公の行列とかやっていますからね。

（南国市）岡豊の歴史民俗資料館では、長宗我部コーナーを設けています。テレビゲームのおかげで元親がすごく人気者なので、全国からいろんな方々が集い、元親を盛り上げようとしてくれています。そういう衣装も着てる人もいたりするので、今、確実に盛り上がってきていると思いますよ。是非、進めていきましょう。県も歴史民俗資料館のほうで応援しています。

**生徒：** 県に120年分くらいの天然ガスがあると聞いたのですが、本当ですか。

**知事：** この土佐湾、室戸岬の沖のほうに、とてつもない資源があるのは確かです。メタンハイドレートといって、メタンガスがシャーベット状になっているものです。それが、高知県土佐湾、室戸の沖のほうに大量にあることがわかっています。これを掘り出すことができれば、日本にもたくさん資源があるということになるんですが、課題が二つあります。

一つは、メタンハイドレートを取り出して、エネルギーとして使えるようにするには、ものすごくお金がかかるんです。なぜなら、海のすごく深いところにあるシャーベット状のものを気体にして取り出すことが、難しいからです。だから、エネルギーとして高すぎるということになりかねないのが第一の課題です。

今、国も研究を進めていて、本格的な活用しようとするには、10何年以上かかるんじゃないかなと言われていています。だけど、これは高知県としては要注目資源です。それは間違いのないところだと思います。

ただ、もう一個ある。メタンガスを全部取り出して、地球上にあるメタンガスを取り出していくと、温暖化対策がものすごく大変になるんじゃないかという意見もあって、そこのところも考えながら開発をしないといけないということがあります。

生徒： 室戸高校にクーラーを付けるのは不可能でしょうか？

教育長： 私も付けてあげたいんですけど、室戸高校にだけではなく、全部の高校にしなきゃいけないので。ですから、今は、PTAの方、保護者の方が付けてくれているという状況があります。でも、勉強しろと言われても暑すぎて勉強できませんよね。だから、少しずつでも増やしていきたいと考えています。

生徒： 知事の子どもの頃の夢は何でしたか？

知事： 子どもの頃は、プロ野球の選手やパイロットになりたかったりしました。そして母が病気になって、その病気を治してくれた医師になりたいと、長いこと思っていました。そのうち、「竜馬がゆく」を読んで政治家になりたいと思い、今に至ります。だけど、30代の時には、東京で公務員をやっていたので、そのまま公務員でいようかなと思っていました。そしたら、今回ご縁があって県知事選挙に立候補させていただいて、今に至ると、そういう感じです。

生徒： 知事は今後、どんな高知にしていきたいと考えていますか。

知事： できるだけ多くの若い人が残りたいと思えるような、高知県にしていきたいと思っています。

そのためにも高知県の産業を元気にし、福祉や教育を充実させていくことが重要だと思っています。

どうやって産業を元気にしていくか。僕は無いものねだりをしては仕方ないと思っています。でかい工場がないから高知県は貧乏だといっても、それは仕方がない。そうではなく、今、高知県が持っている強みを伸ばしていくことを考えるべきだと思っています。高知県が持っている自然、これを大事にして伸ばしていこう。地域にある一次産業を大事にし、例えば、加工品を作ったり、それを観光に生かして、関連産業を育てていくなど、そういうことで高知県を元気にしていくことが重要だと思いますね。

無いものねだりをするのではなく、自分の持っている強みを伸ばしていこう。ずいぶん自信を持っていい強みだと思います。レジャー施設はないけど、他の県から見たら、うらやましいと思うようなものがたくさんあるのが、この室戸だと思います。これから皆で頑張って伸ばしていきましょう。

生徒： 尖閣諸島のことで少し前に日本と中国との間でいざこざがあって、中国人船長が釈放されたことについて、政府の判断についてどう思われますか。

知事： 個人的にどう思うかということで言わせていただければ、僕も昔、3年間外交官をやっていたことがあります。外国との関係は、そもそも考え方が180度違って、お互いに「はいそうですか」とは言えない問題がたくさんあると思います。領土問題もその典型だと思います。

ある問題について、ある国が強硬な姿勢をとると、相手も強硬な姿勢をとり、エスカレートしていくということは、あちこちで起こり得る問題だと思います。だから、強硬な姿勢をとるのか、それとも友好的な姿勢を取るのか。これを選ぶ時には、先々どうなるかということを考えて、対応を練る必要があったんじゃないのかと、思っているところです。

今回、日本政府は、いきなり強硬な姿勢をとりました。中国もそれに対して強硬な姿勢をとり、それによって、どれだけ安全保障上の緊張感が高まり、また、経済的な損失が出たか。お互いそれを考えて、日本も中国も譲歩したんです。両国の関係に、これだけ緊張感をもたらして、この問題を解決したというのは、ちょっと残念だったかなと私は思っています。

最初からどれくらいの対応をすれば、どういう結果が出てくるかということをよく見て対応すべきじゃなかったのかなと。逮捕しておいて、国内法に基づいて厳正に対応しますというやり方は、そこまでタフなやり方をすべきだったのか。それとも、韓国がよくやっているように、いきなり強制退去というかたちで決着をみるというやり方もあったかもしれません。

同じようなことが今後も出てくるかもしれない。この手を打つと次の手がどうなるか。その次、こっちはどう手を打って、相手がどう出てくるか。そのシナリオをよく考えて、今後の対応を考える必要があるんじゃないかと、そういうふうに思います。

#### 4. 閉会のあいさつ

生徒会長： 本日は遠いところからお越しいただきありがとうございました。私達も高知県のためにできることを考えて貢献していきたいと思います。本当にありがとうございました。

知事： 室戸高校の皆さん、本当に長時間ありがとうございました。

皆さんとお話できて本当に良かったと思います。発表してくれた皆さん、準

備も大変だったと思うけど、本当にありがとうございます。是非、この調子で頑張っていたきたいと思います。ご活躍を期待しています。

皆さんは、本当にふるさとの室戸と、室戸の人々のことが大好きなんだろうと思います。また、高知県のことにも、関心を持っていただき、高知県のことも大好きになってもらいたいと思います。ふるさとを元気にしていくのは、何ととっても皆さんのような若い人達の柔軟な発想です。一時、県外に出ていくこともあるでしょう。また、ずっと出ていくことにならざるを得ない場合もあるかもしれません。だとしても、是非、ふるさとのことをずっと思っていていただいて、ふるさとに貢献してやろう、ふるさとの人々の役に立とうと、そのように気持ちを持ち続けていたきたいと思います。

我々大人がもっと頑張らないといけません。僕らも一生懸命頑張りますので、皆さんも一緒に頑張っていきましょう。本当に今日はありがとうございました。